



く感心しました。ただスタッフや共演者と一緒に作っていく現場はやっぱり楽しかったです。私は、現場が好きなんです。まだできあがった作品は見てないんですよ。そのときどきで、モニターは見ましたが、自分の姿を鑑賞するというのはあんまり心地よくありません。もともと自分の舞台を見るのも大嫌いですから、でも、ほんとうに頑張りました。自分では努力賞です(笑)。みなさんは、どう見てくださるかな。

今年は2年ぶりにクリスマス・デイナーショーを開きます。ちよつとした新しい挑戦がありますが、それは今は内緒。今までの自分らしいスタイルと、これからの自分らしいスタイルの両方をお見せできたらいいなと構成を考えているところです。今までのというのは、久しぶりにハナ(花總まり)と一緒に歌って踊るザ

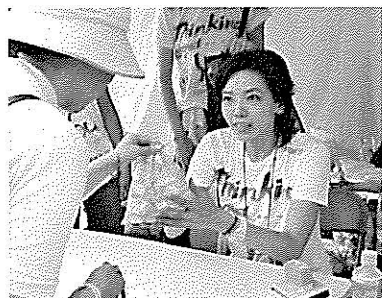
ツツ・エンターテインメントみたいなのをやるのかな、と。一昨年のデイナーショーは、映画の撮影が終わってすぐだったので、踊りの稽古をする時間がなかったのです。でも、今年は時間があるので、しっかりと稽古して、ショーナンバーをやります。昔から私を見てくださっている方も楽しめる感じにしたいです。そうそう、この夏から、長年の宿題に取り組んでいます。日本ビーチ文化振興協会のお誘いで始めたエコ活動。ペットボトルのキャップを集めて、エコベンチを作ろうと呼びかけています。宝塚在団中に事故に遭ってケガをしたとき、とてもつらい思いをしましたが、同じだけ幸せな思いもしているんです。みなさんの応援や励ましに、どれほど支えられたか。とても恵まれているな、人からいっぱいもらっているのだから、

自分もそのぶん何かしなきゃとずつと思っていたんです。だから、声をかけていただいたとき、「あ、今だ。チャンスだ」ととびつきました。

夏にはお台場のビーチにブースを出して立ちました。ペットボトルのキャップを持って来て渡すだけなのに、暑いなか、あんなに集まってくださると思わなかった。キャップを詰めた大きなスーツケース2つをガラガラと引きながら会場に来てくださる方や、「ごめんね、これだけで」ときれいにラッピングしてきてくださる方とか。ほんとうに、ありがたかったです。10月に行われた門司のビーチ・フェスタでは、ミニライブも行ったんですよ。

### 年を重ねる意味とは

私生活では、ダンスの稽古と、加圧トレーニングやピラティスに通って、指導者の資格までとっちゃいま



8月29日にお台場で行われた日本ビーチ文化振興協会のペットボトルキャップ回収イベント。集まった約1000名のファン一人ひとりがキャップを受け取った

した。私は、そんなにトレーニング・マニアじゃないし、人に教えたかと思ってるわけでもないのですが、資格の勉強をすると体の仕組みや理論がよくわかります。1度大きなケガをしているので、人一倍ケアしなきゃという意識が強いんです。私もアラフォー。若いときって、自分は何でもできると思って無茶して、ケガをしたりもする。だから、がむしやりに鍛えるよりも効率よく、あとで崩れないように、ケガしないように鍛えていきたい。そういうことを考え始めることが、年をとる意味かな、と思うようになりました。肌がかきれいとか元気とか、踊りがキレるとかは、ある意味、若ければ当たり前。神様から与えられたものだから。でも、これからがきれいなほうがいいですよ。それは自分が作っていくもの。体って鍛えれば、正直に伝えてくれるものなんです。39歳のテニスプレイヤー、クルム伊達公子選手の活躍を見ると、凄いな、私も頑張ろうと思います。そんなふうに、私も同世代の方々に「ああ、自分ももうちよつと頑張ろう」と希望を持ってもらえる存在になりたい。年齢にこだわった生き方ではなく、私のままを貫いたその結果、「あ、こんな40代でもいいんだ」と思ってもらえたら嬉しいんです。